



一貫コース通信

外国から観た日本を聴いて、改めて考えた事

5月13日(土)に、久しぶりに猪苗代湖の南岸を生徒と共に歩く機会を得た。この事で、改めて徒歩がヒトの感性に丁度良い速さで在る事を再認識させられた。福島より僅かに季節は遅れるが、萌黄色を基調とする新緑モザイクを存分に堪能した次第である。一方、歩く間は時間に追われないので、色々と思いを巡らせる事が出来た最良の時間にもなった。

コロナの分類が5類になったのを機に、様々な人との出会いが戻って来た。職責上研修やシンポジウム等の形を介してではあるが、有識者の示唆に富む幾ばくかの講演を拝聴出来た事は、私にとってとても有益だった。ここでは、その中の一つを紹介したい。地元の福島学院大学は今春マネジメント学部地域マネジメント学科を開設したが、この記念シンポジウムが5/24(水)に開かれた。この時の基調講演が、特に印象深かったのである。講演者は University College London 教授の大沼信一教授(略歴は紙面の制約上省略)。蛇足だが、地元、瀬上のご出身との事である。演題は“ふくしまの未来を担う人材の育成”であったが、一言で、大沼先生のご講演はとても素晴らしかった。経験に基づく知見や慧眼は、専門分野(理学部出身：現職は医学部眼科の教授)に限定されず、日本と英国との歴史的な交流の深さ等、例えば有料でも再度拝聴したい位の内容であった。幾つかの要点の中で特に印象付けられたのは、英国をはじめ、世界各国から見た現在の日本の姿の所である。

大沼先生は講演の中で、現在の各国のGDPや論文引用数等々、多種多様なデータの世界ランキングを紹介し、相対的かつ客観的な日本の位置を示されたのである。思うに、会場の聴衆はこの現実に愕然としたに違いない。データは先進諸国のみならず、新興国を含んでも概ね40位~60位(GDPは含まないが)を示しており、正直これ程までとは…と感じたのは私だけではないであろう。加えて、もはや“先進諸国の中で、日本から学べる事は何もない…”と思われて居ると話されたのである。勿論、大沼先生は日本の良い所も沢山示した上での事である。更には、現在の日本の状況(国民の、自国の真実を知ろうとしない、世界に出て行こうともしない現実)を、“自国鎖国主義”に陥って居ると表現された。また、この様な国は“日本と北朝鮮”の2国のみだと言われたのである。比喻とは言え、正直、これはとてもショックで在った。

私は化学を学び、広く科学を信じ教壇でもその魅力を訴えて来た1人である。少し前の震災時に、放射線の件で科学的データが意味をなくし不安に苛まれるのを目の当たりにし、科学(ある意味、真実なのに)の無力感を味わっている。

また、今般のコロナも日本の科学技術を以てすれば、自国でワクチン開発が出来ると信じていたが、出来なかった現実に日本の凋落を垣間見、落胆したのも最近の事である。だがしかし、本校には次の日本を変える資質を備えた生徒達と、志を持ちその生徒を導こうとしている教員団が居るのではないか。この有難い現実に接し、日本の現状を是とせず、老体に鞭打ちながらも頑張らねばと考えた次第である。

